

げんき通信

肺炎球菌ワクチンのお話

みなさんは「肺炎球菌」という言葉をご存知ですか？ ほとんどの方にはなじみが薄いと思いますが、今年になって日本でも小児用のワクチンが発売され、話題になっています。肺炎球菌は私たちの鼻やのどの粘膜に普通に存在している細菌で、健康な時には特に問題ありませんが、体力や免疫力が低下した時には感染症を引き起こします。この肺炎球菌感染症にかかりやすいのがこどもと高齢者で、特に2歳未満の乳幼児と60歳以上の方に多く見られます。

肺炎球菌という名前がついていますが、肺炎だけではなく、さまざまな感染症の原因となります。高齢者では肺炎、菌血症（本来無菌状態である血液の中に菌が入り込んだ状態）、髄膜炎などの前段階になることが多く、こどもでは、菌血症、肺炎、細菌性髄膜炎のほか、中耳炎を起こすこともあります。これらの感染症の中で、特に「細菌性髄膜炎」は乳幼児が死に至ることもある怖い病気です。初期の症状は発熱、嘔吐、頭痛などで、かぜ症状と区別がつきにくく、その後、けいれん、意識障害などが起こります。



治った後も後遺症として、発達・知能・運動機能の障害の他、難聴が起こることもあります。予防の重要性が叫ばれています。これらの感染を予防するにはワクチン接種が最も有効です。ワクチンは1988年にすでに発売され、65歳以上の方に推奨されていたのですが、情報不足のせいもあって、あまり広がっていません。それが2001年から急速に普及し始め、今では接種する方がかなり増えていきます。ただ、このワクチンは2歳未満の乳幼児には効果がないという問題点がありました。そして、今年の2月によくやく小児用の肺炎球菌ワクチンが発売になったというわけです。このワクチンは生後2ヶ月から9歳までの小児が対象で、接種回数

くわしごとは
あなたのかかりつけ医で
おたすねください。



〈西与賀店:薬剤師/にしやま〉

は年齢により異なります。

ヒブと肺炎球菌が原因の約8割

細菌性髄膜炎を起こす菌としては、他にも数種類が知られていますが、最も大きな割合を占めるものにインフルエンザ菌b型（ヒブ）があります。これは季節性や新型のインフルエンザを起こすインフルエンザウイルスとはまったく違う病原体です。ヒブワクチンも2008年から接種できるようになっています。このヒブと肺炎球菌の2種類で細菌性髄膜炎の原因の約80%を占めています。早期の診断が難しく、重症化しやすい細菌性髄膜炎の発症を抑えるためには、この両方のワクチンを打つことが必要と考えられています。

いずれのワクチンも、現在のところ任意接種となっていて、費用も自己負担ですが、危険を防ぐために、乳幼児の保護者の方や高齢の方はかかりつけ医でお尋ねになってはいかがでしょうか？

C O L U M N

げんきコラム

こんな時も薬局へどうぞ!



最近、血糖値や血圧を自分でチェックをしたいという方が増えています。自宅で測った血圧の記録を、受診時に持参するように、主治医から指示されている方も多いようです。自己血糖測定器は『高度管理医療機器販売業』の許可を受けた薬局で購入できます。また血圧計にもたくさんの種類があるので、自分に合った機種を選ぶことが大切です。くぼ薬局の薬剤師にお気軽にご相談ください。

処方せんはぜんぶ
「くぼ薬局」に
おまかせください



すべての病院・医院の
処方せんを受けつけ
責任を持って調剤いたします。

ご家族みなさんのかかりつけ薬局としてご利用ください

あなたのまちのくすり箱

くぼ薬局

- 県庁通り店 ☎23-4550
- 中町店 ☎26-2817
- 木原店 ☎24-2233
- 中の小路店 ☎24-2882
- 西与賀店 ☎22-2311
- 医大通り店 ☎32-1133
- 北茂安店 ☎0942-89-1777